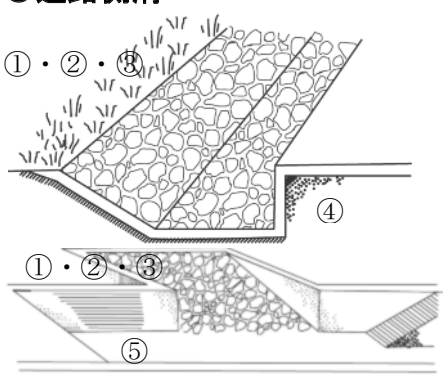



配慮の視点	種の多様性への配慮 遺伝子の多様性への配慮	配慮 項目	野生生物の移動を阻害する要素の 排除
配慮事項	野生動物の移動ルート の確保		
配慮事例	小動物の脱出・移動可能な側溝などによる脱出・移動ルート の確保		
内容	<p>●野生動物などの脱出・移動のための水路や道路側溝の工夫</p>		
	<p>【解説】 道路側溝などに小動物が落下すると、<u>脱出できずに、死亡して</u>しまいます。そのため、<u>落ちた小動物が這い上がるように側溝を工夫することが生物多様性への配慮につながります。</u></p> <p>【具体的な工法・配慮事項】</p> <p>●道路側溝</p>  <p>① 側溝側壁のスロープ化。 ② 石貼りなど凹凸のあるスロープの設置。 ③ 透水性の素材を使い、落ちた生き物が生きられるようにする。 ④ 道路への侵入を防ぐため、道路側を垂直にする。 ⑤ コンクリートが乾く前に竹箒で側壁に溝をつける。</p> <p>●集水枳</p>  <p>① 集水枳に階段をつけて、カエルなどが水路に登れるようにします。</p> <p>出典:2</p>		
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・スロープは道路側に設置しない。 ・小動物が水路や道路側溝に落下しないよう、出来るだけ蓋掛けをする。 		
参考資料	<p>1 「解説 配慮事項の事例と具体的な考え方 北海道環境配慮指針〔公共事業編〕 一道が行う公共事業環境配慮ガイドライン」 北海道</p> <p>2 「兵庫ビオトープ・プラン」 兵庫県</p>		